

氏の原著を譯したもので、特に専門的の著述といふではありませんが、児童心理學の大體に廣く行つて、手際よく種々の問題に觸れて居る度が特長であります。たゞ此の著者の本能といふ語が最廣い範圍にまで擴げられて居る處は、専門的には議論の起り得る點ではありませんが、邦語の児童心理學書としては恐らく最も實のあるものでありませう。次に高島平三郎氏著「児童心理講話」(廣文堂)は極く通俗的に大體を解り易く説いてあります。文學士松本孝次郎氏著「児童心理學」(博文館)の初めの數章は児童研究の歴史及方法の概要を知るに於て邦語の著書中最便利であります。又同氏著「實際的児童學」(同文館)及び富永岩太郎氏著「児童心身の發達」(同文館)は、いづれも實際的教養上の參考を主として説いてあります。尙ほ五十嵐力氏著「児童研究」(金尾文洲堂)は米國テイラー氏の著によつたもの、浜多市松氏著「子どもの研究」(實業日本社)は英國サリー氏の著(Children's Way) (定價七十錢)は英國サリー氏の著(Children's Way)

によつたものでてります。それから桑田孔治氏譯「児童心理學」(富山房發兌)は児童の四つの氣質に関するヘルキヒ氏の著を親切に譯されてあります。此他児童のことに就ては日本児童研究會發行「児童研究」(毎月一回)が醫學的其他的方面の研究と共に心理學研究の新しい參考を供して居ります。

○ピー、エス、ヒル氏

「幼稚園の唱歌」

去年十二月の「幼稚園評論」に、ヒル氏は米國に於ける幼稚園唱歌の發達の歴史を叙した末に、幼稚園に於ける音樂問題に關し、次の如き概論を試みて居る。

(一)幼稚園に於ける音樂使用の過度は慎むべきことだ。而して其の弊害は二つの結果にあらはれる。(イ)餘りに絶えず音樂が用ゐられて居ると、幼兒は、音樂に對する注意力を却つて失ふ様になる。遂にはピアノの響も、歌の聲も、無味單調にな

つて意識の水平下に下る。(ロ)音楽の多いことは幼児をして無意識的に興奮状態に絶えずあらしめる。

(二)幼稚園の唱歌は、詩として云つても、音楽として云つても、餘り長いのはいけない。子供の歌は子供の経験と子供の気分によつて理解されてこそ真に詩的なので、それが餘り多くの音楽的乃至文學的思想や情緒を含み過ぎて居るのでは、子供に適しない。概していへば、短い歌がいゝ。

(三)歌の中に、詩的乃至音樂的思想及感情が、適當に繰りかへされて居ることが必要である。多くの歌には此の繰りかへしが缺けて居る。

(四)音程、拍子、ともに餘り六かし過ぎるのは子供に適しない。

(五)和聲、伴奏共に餘り複雑且尙過ぎるのはいけない。子供の耳が要求もしない、従つて理解する能力もない程な、不必要な巧妙や複雑な調音などいらない。

(六)幼稚園用の唱歌としては、音がいゝとか、

調がいゝとかいふ方の價值よりも、活動的なこと、律的なこと、所作、遊戲を伴ひ易いことの方を尊重する。

(七)従つて、調音でも律でも、活動を伴ひ易い様なものを撰んで、運動よりもしんみり聞き惚られて仕舞ふ様なものは避けなければならぬ。

(八)唱へ方の、音楽としての正しい習慣をつけるといふことも必要ではあるが、それよりも、表出の自發性を重んじなければならぬ。

(九)幼児をして、其の自分の思想なり感情なりを、短い詩的音樂的歌词に發表し得る様に、其の能力を導いてやる必要がある。

(十)正しい音階や調や律を、良く聽いて、よく理解する様に子供等に學ばさなければいかん。只無暗に歌ふばかりのはいかん。

(十一)自發的だといふので、無暗に聲を張り上げて歌はせるのも、節をきれいに歌ひ分ける爲だとして、矢鏗低い聲で歌はせるのも、兩方とも飛んだ大間違ひである。(了)